



この教材の見方・使い方

この教材は、地球の現状や諸問題への理解を深めることを目的に作成しました。節の最初のページには、その節で学習する内容について、教員向けの説明を掲載しています。節の2ページ目以降は教員と生徒双方に役立つ資料やインタビュー、コラムなどを掲載しています。

*内容においては中学生を想定して作成しておりますが、必ずしも中学生の使用に限るものではありません。

教員向けのページ

第1章 世界の現状
第1節 グローバル化と相互依存②

日本から海外へ、海外から日本へ～ヒトの動き～

指導のねらい

- グローバル化は、流通や情報といったモノだけではなく、ヒトにも大きく影響していることに気付かせる。
- 身近なところでも、グローバル化、少子高齢化の影響を受けていることに気付かせ、日常生活の中にもその影響が顕在化していることを理解させる。
- 共生社会の実現に向けての取り組みを理解し、社会の形成者として自分たちができることを考え、積極的に関わろうとする態度を養う。
- グローバル社会における人権の課題を知り、グローバル化の進展とともに日本国内において外国人の権利が変化してきたことに気付かせる。

ESDとの関連

環境学習、国際理解学習、経済学習、社会学習、生物多様性、気候変動、その他

学習指導要領との関連

- ・中学校社会 [地理的分野] (3) イ
- ・中学校社会 [公民的分野] (4) ア、イ

キーワード

外国人労働者
グローバル化が進んだことで、世界的に人の移動が活発化し、それに伴い、外国人労働者も増加している。国どうしの経済格差が大きい場合、発展途上国などから先進国や経済的に発展した地域に人々が流入し、多くの外国人労働者が生まれる。少子高齢化が進んだ先進国では外国人労働者を労働力不足解消のために受け入れることもある。外国人労働者の問題としては、受け入れ国側では外国人労働者とその家族などの社会適応や社会統合の問題などがあり、一方で、送り出し国側では優秀な技術や知識を持った人々が先進国に流れる「頭脳流出」が問題として挙げられる。

FTAとEPA
FTA (Free Trade Agreement, 自由貿易協定) とは、ある国や地域との間で、関税をなくし、モノやサービスの自由な貿易を一層進めることを目的とした協定のことである。これに加えて、投資の促進、知的財産や競争政策等の分野での制度の調和、様々な分野での協力などのより幅広い分野を対象として、経済上の連携を強化することを目的とした協定がEPA (Economic Partnership Agreement, 経済連携協定) である。これらの協定を推進することは、当事者国どうしの経済が活発化するというメリットもあるが、競争力の低い産業分野では選りすぐられる可能性のあるなどのデメリットも指摘されている。

資料のポイント

- グローバル化が進むにつれて、人の移動が活発になっていること、さらには発展途上国滞在者が増えていること、原因として発展途上国における企業の経済活動が影響していることを理解させる。 **資料1**
- 日本国内において社会を構成する人々は多様化しており、社会の容れこまな性、社会意識も変化していることを理解させる。 **資料2** **コラム**
- 日本の産業が外国人労働者に支えられていることを知り、日本社会で急激に進行している少子高齢化に対応するために外国人労働者の存在が注目されていることを理解させる。一方で、日本社会による外国人労働者やその家族の受け入れ上の課題が明らかになっていることを理解させる。 **資料3** **コラム**

8

指導のねらい

節ごとに、指導上のねらいを明記しました。また、ESD（持続可能な開発のための教育）と関連している分野も示しています。

学習指導要領との関連

学習指導要領において関連が深い内容を、できるかぎり多く掲載しています。

キーワード

指導する上で、理解させたい用語について解説しています。節の理解が深まりますので、指導に役立ててください。

資料のポイント

データや図版などの資料の着眼点を示しました。資料を読み取る際、どのような点に注目すべきかが分かります。

